

A 君（宮城県、父をなくす。母親からの手紙）

こんにはちは、昨夜、亡くなったお父さんの夢を見た。
ユースがテレビで流れる季節になりましたね。

三月一日、長男が[]が無事に高校卒業
しました。今まで八年間、毎月ご支援をいただき、

ありがとうございました。

支援金は、中学時代は部活動でバスケットボ
ール部に入り活動資金などにあてました。高校
生の時は、学校の寮生活になって親元を離れ
ました。寮生活費に支援金を使い使っていたき
ところも、たすかりました。感謝の気持ちでい
はいです。

そして、この四月から、大学生になります。
ひとえに、高校を地元の公立でなく、思いき
て、仙台の私立へ入学し、勉学に専念でき
るよう、寮生活ができたからだと思います。

大学では、農学部へ進みます。震災前
の我が家は、いちご農家でした。いよいよ時がら
い、お父さんのように、農業をするレと言っ
ていた。長男は、夢に、~~近~~近づいたよう
です。

B 君（宮城県、母をなくす）

私は、将来プロサッカー選手になるためにサッカーJ1リーグのアカデミーチーム「ベガルタ仙台ジュニア、ジュニアユース、ユース」に所属し、小学校から高校までを過ごしてきました。震災時は小学校3年生で、この先サッカーを続けることが出来るのか不安な日々を過ごしましたが、周りの方々のサポートや子供未来基金の支援者皆様からの温かい支援があったおかげで、我々兄弟は、ここまで学校やサッカーを続けることができました。残念ながらプロサッカー選手としてトップチームに昇格はできませんでした。しかし、東京の名門大学サッカー部に入部することが決まり、2月から入寮しチームに合流しています。何年後かには、自分を育ててくれた「ベガルタ仙台」に戻るよう厳しいトレーニングを積み、高い意識と覚悟をもってサッカーに取り組んでいこうと思います。

子供未来基金支援者の方々への感謝の気持ちを忘れず、数年以内に自分を育ててくれたこのベガルタ仙台というクラブに戻り、ユアテックスタジアム仙台でピッチに立つことでお世話になった方々に恩返しできるよう頑張ります。これからも応援よろしくをお願いします。

Cさん（宮城県、父をなくす）

いつもご支援ありがとうございます。

私は、高校生活をとて充実して過ごすことができました。
特に部活動では、書道部に入部し、3年間仲間とともに
書道パフォーマンスなど、たくさんの作品を作ることが
できました。

勉強は、この3年間 平日、休日 しっかりと勉強すること
できました。友達と遊ぶことも少なく、ずっと勉強していま
した。

大学では、日本人だけでなく、たくさんの留学生が
いるということなので、そこで、異文化などを学べたらいい
なと思い、しています。これからも頑張っています。

Dさん(宮城県、父をなくす)

私は先日高校を卒業し、今日4月からは将来の夢である動物、ペット関係の仕事に就く為の知識を学ぶ為、専門学校に通う事になりました。

私達が将来の夢を叶える為の勉強をするにあたり、このように支援者様からの温かい善意の御寄付を頂ける事は大きな励みであり、また前向きに頑張ろうという勇気を貰える事に本当に感謝しております。

皆様からの沢山の温かい思いを励みに、将来希望の職業に就けるように自分なりに一生懸命努力していきたいと思います。

Eさん(宮城県、父をなくす)

私は3年間、私立高校に通わせていただき沢山の経験ができました。

学校行事ではクラスの仲間と友情を深めることができた。1番の思い出は修学旅行でグアムに行ったことです。スポーツコースということもあり、朝にビーチで体を動かしたり、海外の高校とスポーツで交流を深めたりすることができました。

私が3年間で1番力を入れたのは、部活動のバスケットボールです。とても厳しいものではありましたが、その分得たものも多かったです。私は、1年生の頃からユニフォームを着させてもらっていましたが3年生になって夏の大会の前に怪我をしてしまい、全国大会ではベンチ外でした。それでも復帰して冬の全国大会でユニフォームを着させてもらうことができました。1年生、2年生の頃はなかなか結果を残せずにはいましたが自分達の力で全国大会に夏、冬と出場でき、本当に良かったです。3年間の部活動を通して、バスケットボールの技術だけでなく、人間性の部分だったり多くのことを学びました。部活動の思い出は、良いものだけでなく悪いものもありますが、全て将来に生きてくるものだと思っています。

このような沢山の経験ができたのも当たり前前のことではないのでとても感謝しています。支援していただき本当にありがとうございました。

Fさん（宮城県、父をなくす）

これまで長い間ご支援頂いた皆様には心から感謝申し上げます。皆様から頂きました支援金は、高校在学中に米国・ミシガン州へ一年間の単身留学をした際、試験を受けて獲得した奨学金では賄いきれなかった分の費用に充てさせて頂きました。単なる英語力の向上だけでなく、異国の地で一人過ごした日々から学び得たことは非常に豊かで、その数えは計り知れません。九年前に亡くなった父の望みでもあった長期留学を果たすことができたのは他にもない皆様のおかげです。貴重な学びの機会を与えて下さり、こうして感謝申し上げますだけでは到底足りません。また、この基金の受給者として、経済的に皆様へ支えていただいたことはもちろん、それに加え、以前と比べ報道もかなり減り、記憶の風化が急速に進んでいるあの震災の遺児である私たちのことを未だ忘れず

にサポートしようとしてくださっている方がいる、という事実にも、今尚辛く悲しくいらたたしく癒えない気持ちが続いておりました。重ねて申し上げます。長い間の温かいご支援 本当にありがとうございました。